

## 富士市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

富士市子ども読書活動推進協議会

## はじめに

平成18年2月に「子どもが本と出会い、読書を楽しむまち ふじ」を基本理念とした「富士市子ども読書活動推進計画」が策定された。この「推進計画」は「子ども読書」に関わる多くの富士市民や関係機関等を対象に実施したアンケート結果を基礎資料として現状を分析し、今後の5年間を見据えた数値目標を設定するなどして計画されたものである。

計画倒れという言葉があるように、鳴り物入りで策定された計画も絵に描いた餅に終わることが多い。そこで、本計画を実効あらしめるために、「推進計画」の第4章で「富士市子ども読書活動推進協議会」の設置を義務付け、「年度ごとの計画の進捗状況を確認し、評価と改善を行う」ととした。

これを受けて、平成19年度に本協議会が設置されて進捗状況の確認などの活動が始まり、同20年度も継続した。家庭、幼稚園・保育園、学校、市立図書館、地域社会のそれぞれにおける読書活動が計画通り進捗しているか、改善すべき点はないか等アンケート結果をもとに評価をした。

協議会では、アンケート結果のまとめを中心に議論した。どのアンケート結果も計画策定時（平成17年度）に比して改善されていることが判明した。計画は3年目であり、目標に達していないものはあるが、今後の活動で多くが達成されるものと期待している。

議論の中で委員からは、家庭での読書が子どもの読書活動に大きな影響を与えること、幼稚園・保育園での読み聞かせの意義と保護者のボランティア活動への協力の大切さ、県内で最も充実している学校図書館司書の配置と勤務の在り方、移動図書館の充実に伴う児童図書利用冊数の増加、まちづくりセンターの図書コーナーの充実等多くの評価する意見や要望が出された。

以上の通り、各方面の御協力により「推進計画」は実施に移され順調に推移している。本協議会は計画が2年後の平成23年3月までに達成され、富士市民が子どもと共に読書を楽しめるよう引き続き進捗状況を見守っていききたい。

平成21年2月23日

富士市子ども読書活動推進協議会

委員長 野崎 耕一

## 目 次

1 家庭における読書活動	1
2 幼稚園・保育園における読書活動	3
3 学校における読書活動	5
4 市立図書館における読書活動	7
5 地域社会における読書活動	10

## 参考資料

1 アンケート調査結果 乳幼児対象	12
2 アンケート調査結果 小中学校対象	27
3 富士市子ども読書活動推進協議会設置要領	37
4 富士市子ども読書活動推進協議会名簿	38

# 富士市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

(アンケート調査結果および事業報告、図書館統計などによる) 平成 20 年 11 月 13 日

## 1.家庭における読書活動

※計画策定前はブックスタート(6ヶ月検診時)のアンケート結果を基にしたが、ブックスタートの成果を見るということ、読み聞かせに、より適した年齢であるということを経由に、三歳児の検診時のアンケート結果を平成19年度は評価指標として用いた。

### ア 読書する機会の提供と体制の充実

ブックスタートふじ事業の参加率は88%(平成19年度前期実績)と前回調査の(81%)を上回る実績となっている。(平成19年度実績:87.4%) (前回実施:平成16年度)

### イ 家庭での読書時間の確保

三歳児検診時の調査では『～お子さんに読み聞かせをしていますか?』という問いに対して、94.6%が、「ほぼ毎日している」「ときどきしている」と回答している。また、『あなたのお子さんは、本の読み聞かせ～好きですか?』という問いに対して、「好き」という回答が89.6%あり、前回(61.4%)を大幅に上回っている。

### ウ 家庭読書支援体制の充実

『～市立図書館(移動図書館も含む)で子ども用の本を借りますか?』という問いに対して、「ほとんど借りない」という答えが63.3%と前回(50.7%)より増えている。また、『家庭に子どもの本は何冊くらいありますか?』という問いには「10冊以下」が8.6%(前回49.7%)と減少し、「10～50冊」が75.7%(前回43.9%)と増加している。また、ブックスタート関連の各地域でのおはなし会については、開催地区数が18地区と前回の調査時と同様で、全地区の開催には至っていない。

## 協議会でのご意見

- ・子どもが何度も「読んで」と持ってくる本はその子の財産。「またその本なの？」  
と言わず大切にしてほしい。
- ・乳幼児期は、読み聞かせを通してのふれあいが大切で、そういうことをもっと若い  
お母さんたちに伝えていかなければいけないと思う。
- ・家庭での読み聞かせを「ときどきしている」と回答している人の頻度が気になる。
- ・『図書館でほとんど本を借りない』家庭の割合は増えているものの、家庭の蔵書や家  
庭での読み聞かせが増えている。
- ・ブックスタートのときは、やる気があっても、子どもが育っていくにつれ育児の忙  
しさにまぎれてしまう現実がある。
- ・子どもに読んであげる、自分も本を読む時間を意識的に作らないといけないと思う。
- ・妊産婦対象の“子育て応援します（絵本編）”のような講座を企画して、母親になる  
前に教えてあげると効率が良いかもしれない。
- ・良い本を家庭にそろえてあげることで、子どもが自分なりに活字をひろって読むとい  
うことも良いが、お母さんやおばあさん、うちの人を読んであげることが大切だと思  
う。

## 2.幼稚園・保育園における読書活動

### ア 読書環境の整備

教室内の図書コーナーの設置率については、幼稚園が87.5%と前回(91.7%)を下回っている。図書室の設置率は33.3%(前回25%) 図書コーナーの設置率は70.8%(前回66.7%)と伸びている。保育園については前回と同様(96.4%)である。

### イ 教諭・保育士の研修の充実

研修参加実績の調査では「ある」の回答は保育園が12園(42.8%)で、幼稚園が12園(48%)であり、目標値の100%には開きがある。

\*今回の園への調査については、研修の範囲について外部研修のみか園内部での職員研修を含めるか明確ではなく、内部研修等を回答に含めるよう、次回のアンケートでは研修の範囲に留意する必要がある。

### ウ 保護者への読書活動の啓発

保護者への図書の貸し出しについては幼稚園で80.0%、保育園で89.3%と前回は上回っている。(前回 幼稚園75.0%・保育園85.7%)『～お子さんに読み聞かせをしていますか?』という問いに対して、幼稚園で89.3%・保育園で87.0%が「ほぼ毎日している」「ときどきしている」と回答している。前回の調査(幼稚園90.9%・保育園90.0%)と差異はないが、「ほとんどしていない」と回答した幼稚園10.2%(前回9.1%)・保育園13.1%(前回10%)と前回の調査よりも若干増加している。また、『あなたのお子さんは、本の読み聞かせ～好きですか?』という問いに対して「好き」が幼稚園86.5%(前回89.3%) 保育園85.1%(前回86.5%)と若干前回の調査より低い値となった。

『あなたは本を読むことが好きですか?』という問いに対して「嫌い」と答えた保護者が幼稚園5.7%(前回5.8%) 保育園6.7%(前回6.2%)いた。また、『～何冊くらい本を

読みますか?』という問いに、幼稚園 29.9% (前回 38.5%) 保育園 45.7% (前回 42.2%) の保護者が「ほとんど読まない」と回答している。

#### 協議会でのご意見

- ・ 教室内の図書コーナーは、私立の幼稚園では園長の方針であえて設けていないところ以外は、ほとんどの園で設置しているはず。
- ・ 園での読み聞かせは子どもの気持ちを育てるよう工夫して絵本を選ぶようにこころがけている。
- ・ 保護者のボランティア活動への協力が、最近はなかなか難しい状況である。
- ・ 図書コーナーの設置は保育園より幼稚園のほうが低い結果が出ている。もしかすると“教室内に”ということばに固執したのではないか。
- ・ 幼稚園や保育園に、お母さん方が読むための本が、貸出用としてあると良いと思う。

### 3.学校における読書活動

#### ア 読書習慣の確立と指導の充実

全校一斉読書については、小・中学校全てで実施されるようになり、またその3割以上が毎日実施しているので、児童・生徒に対し読書の機会の提供という観点からは順調な伸びが読み取れる。

#### イ 学校図書館の整備と充実

現在富士市内の小・中学校の全てに図書室があり、平成16年度の調査では3,000冊以下の蔵書数しか持たない学校が2校あったが、平成18年度の調査では39校全てが3,000冊以上となっている。蔵書数10,000冊以上の学校についても、4校からほぼ半数の18校に増え、平均蔵書数も7,783冊から9,447冊に伸び、学校図書室についても充実振りが伺える。

#### エ 保護者への啓発（各種たよりの活用）

学校での一斉読書の実施により、平成16年度の調査時に比べ、「ほとんど読まない」と回答した割合が減少（小・中全体で19.3%から15.1%）している。また、読む冊数も「1～2冊」が33.5%から30.6%へと減少し、「3～4冊」が23.0%から24.0%へ、「5～6冊」が10.5%から13.2%へ、「7冊以上」が13.5%から17.1%と増加している。家庭においても読書時間、冊数が伸びていることが読み取れる。

『月に何回くらい市立図書館を利用しますか』という問いに対する回答では、平成16年度の調査結果と比較して目立った差異はない。

しかし、『家庭で親と子が本の内容について話をすることがありますか』という問いには、「あまりない」の割合が小学校では33.1%から29.7%と減少したが、中学校では47.8%から48.1%と増加し、「よくある」「ときどきある」の合計の平均が小学校は33.45%から35.15%へ、中学校でも26.1%から33.2%へ増加している。

## カ 市立図書館、学校間との連携と協力

学校からの市立図書館の利用は、小学校（60.0%から 64.0%）、中学校（35.7%から 42.9%）とも増加した。

### 協議会でのご意見

- ・市内特別支援学校では予算が足りなくて蔵書が少ない。中央図書館から団体貸出を受けており助かっている。児童が本を破損した場合の対処を検討していきたい。
- ・小学校の朝読書ということでは富士市は読書環境が整っている。次の段階に行く時期では。  
例えば、本を読む子と読まない子の差が大きいのので、今後は読まない子に力を入れていく。  
質の高い本を与える。読書の質を高める等一人一人に合った指導をしていく。  
読書を楽しむ子どもを増やす。  
教科書に載っているような物語文を親子で読んで感想を言い合う、等。
- ・学校図書館司書は臨時職員であり、勤務時間は一日5時間、9:30~15:15 となっている。やはり登校時から下校時まで居て欲しい。正規職員として採用して欲しい。

## 4.市立図書館における読書活動

### ア 子ども向け資料の整備充実について

平成 20 年 3 月 31 日現在、富士市の図書館全体の図書資料 902,683 冊のうち、児童書数は 257,176 冊で、蔵書割合は 28.5%となっている。計画策定時の児童書数 229,549 冊からは増加しているが、目標とする冊数（294,500 冊）や蔵書割合（30%）には数値に開きがある。

このため各年次計画的な整備を進め、平成 20 年度には大淵分室・富士川分室が開設され、子ども向け資料は増加している。

中学生、高校生をターゲットにしたヤングアダルトコーナーについては、中央図書館・地域館（西図書館・東図書館・富士文庫）については設置済みである。

計画策定時はヤングアダルトコーナーの資料数を算入せず、児童図書として管理している資料数のみを採用しているが、計画の対象が 18 歳以下であるので、ヤングアダルトコーナーの資料数の取扱いを検討する必要がある。

### イ 図書館利用の啓発・広報について

各館において、利用の啓発に努めているが、保護者向けアンケートで各家庭の図書館利用（貸出）についての調査結果では、小中学校で「ほとんど借りない」家庭が約 55%で平成 16 年度アンケート調査時の割合とほとんど変わっていない。

また 6 歳以下の幼児の家庭では、「ほとんど借りない」家庭が 63.3%で、平成 16 年度調査時の（50.7%）より増加しており、図書館に来ることのできる環境整備や更なる広報が必要とされる。

平成 19 年度図書館全館（でごいち文庫、まちづくりセンター配本分を含めない）での児童図書貸出数は、年間 571,008 点となっており、計画策定時の 524,151 点より確実に増加している。なお目標数値の 605,000 冊とするには、前述の利用していない家庭の利用を促す必要がある。

## ウ 他機関と連携や支援について

学校への協力貸出、幼稚園、保育園への大型絵本への貸出を行っている。

移動図書館についても、保育園、幼稚園、学校等の巡回場所を増やし連携支援を行っている。

幼稚園、保育園としての図書館利用率は36%（平成16年度25%）と60.7%（平成16年度14.3%）と伸びているが、小中学校としての図書館利用率は56.4%（平成16年度51.3%）とほとんど伸びていない。

小中学校は運営上、授業としての定期的な利用ができないため利用率の向上は難しいが、学校への協力貸出などによる利用の拡大は期待できる。

まちづくりセンターとの連携では、児童図書を中心に18のセンターに対して12,000冊の配本を行っている。（平成20年度まちづくりセンター配本箇所 別紙）

なおボランティア団体の活動しやすい環境整備に努めるため、団体貸出を行うとともに、4団体に補助金を交付している。またボランティアの質の向上を図るため読み聞かせボランティア養成講座を実施している。

## エ 読書推進事業の開催について

平成19年度中央図書館、東図書館において児童作家の講演会を開催し313人が参加した。

子ども向けのおはなし会は、全館で延206回開催し、3,013人の参加があり、目標とする開催回数150回参加人員2,500人を上回る実績となっている。より一層の推進を図ってゆく。

「子どもまつり」についても毎年開催し、ボランティア団体との協働を図っている。

## オ 専門的職員（司書）の育成について

司書の資質、能力向上のため、静岡県図書館協会主催の司書研修等に参加しているが、各自の自主研修によるところが多く、図書館としての組織的な内部研修が少ないのが現状である。

職員体制も臨時職員に頼るところが大きく、理念と現実の格差がある。

## カ 障害のある子どもの読書支援について

各館において、福祉施設などに所属する児童の利用受け入れを行っている。利用頻度は各施設によってまちまちであるが、施設の指導員が同行して利用補助を行っており、図書館としては通常業務のなかで対応している。

また、市内特別支援学校への協力貸出も平成 19 年度から定期的に始まり、資料提供の連携を図っている。

### 協議会でのご意見

- ・毎年、学校では図書主任者会議で年間の調べ学習計画を提出しており、子ども個人での市立図書館利用に対応している。
- ・教科書に出てくる本のコーナーなどがあると良い。
- ・児童図書貸出冊数が増えている一つの理由は移動図書館の充実にある。

### (参考) 平成 20 年度 配本実施まちづくりセンター

配本月 5・7・9・11・2月		
配本日		
5/27 9/24 2/24	7/29 11/26	富士南 富士北 丘 天間 鷹岡
5/28 9/26 2/25	7/30 11/28	原田 須津 松野(2月) 岩松 岩松北
配本月 6・8・10・1・3月		
配本日		
6/24 10/29 3/24	8/26 1/27	青葉台 広見 浮島 元吉原
6/25 10/30 3/25	8/27 1/28	吉原 伝法 吉永北 神戸 富士見台

## 5.地域社会における読書活動

### ア まちづくりセンター図書コーナーの活用

まちづくりセンター図書コーナーは、中央図書館からの配本も受け、全体で年間約1万人の貸出利用、約2万点の貸出冊数を維持している。コーナーの利用については、まちづくりセンター職員と地域のボランティアが協力して行っているが、計画策定時に14館でボランティアが協力していたが、平成20年度の調査では6館と減少している。ボランティアの参加を推進する新たな立案が必要とされる。強制できるものではないので、数値目標を達成するには難しい面がある。

図書コーナーの運営には図書館からの協力を維持する必要がある。

### イ 読み聞かせグループによる学校支援の推進

### ウ まちづくりセンターでの親子で参加できるお話し会などの充実

まちづくりセンターを会場とした、地域の読み聞かせグループなどによる「お話し会」は、ブックスタート事業とも連携して行われている。現在18館で開催されており、残り8館での実施が望まれる。

地域の実情や人材育成などの課題もあるが、図書館とまちづくりセンターおよび地域からのよびかけが必要である。

### エ 児童館等や放課後児童クラブにおける読み聞かせなどの充実

市の次世代支援計画に基づくさらなる児童館の設置については、平成21年度前期計画内となっているが、現在2館である。(後期計画期間は平成22年度から26年度)

放課後児童クラブについては、計画策定時よりも増えて24クラブとなっているが、クラブ内で読み聞かせ活動をしているのは21クラブであり、計画策定時と同様である。

## オ 地域社会の力を活用した読書活動の推進

子どもの読書活動の推進には、社会全体の環境も重要な要素であるが、富士市の地域社会が読書環境をどのように整えていくのか、今後、まちづくりの政策として、地域の読書環境の整備をよびかける必要がある。

### 協議会でのご意見

- ・学校の図書館は、休日には閉まっている。すべての子どもが公共図書館を利用できる環境にあるわけではなく、全小学校区にあるまちづくりセンターの図書コーナーの一層の充実が望まれる。配本の際、児童書の割合を増やしていただきたい。

富士市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

平成 21 年 3 月

編集・発行 富士市子ども読書活動推進協議会

事務局 富士市立中央図書館

〒417-8515 静岡県富士市永田北町 3 番 7 号

電話 0545-51-4946 Fax 0545-51-7135

Email [library@div.city.fuji.shizuoka.jp](mailto:library@div.city.fuji.shizuoka.jp)